

平成 29 年度事業報告

(平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで)

1. 食物アレルギーに関する研究開発支援事業

(1) 平成 28 年度公募型研究助成事業

平成 28 年度に実施した食物アレルギーに関する基礎研究、診断・治療及び対応食品の開発に関する研究助成事業（共同研究 7 件・3,259 万円、個人研究 18 件・3,064 万円、期間：平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月）の完了に伴い、研究成果報告書を纏め、当財団 Web 上での掲載及び冊子で公開するとともに以下の内容で研究成果報告会を開催した。

《成果報告会》

開催日：平成 29 年 10 月 13 日

場所：AP 品川アネックス(東京都港区)

出席者数：約 60 名

内容：共同研究助成課題 7 件について発表した。出席者の専門分野が医療から食品領域と多岐に渡ることもあり、報告会での質疑応答や懇親会での研究者間の交流は活況であった。

(2) 平成 29 年度公募型研究助成事業

食物アレルギーに関わる科学技術の振興・促進を図り、患者を取り巻く医療や食環境の改善に寄与することを目的に実施している研究助成事業において、平成 29 年度に採択された食物アレルギーに関する研究課題に対して以下の通り研究助成を実施した。

《助成先等》

助成件数：19 件（共同研究 5 件、個人研究 14 件）

助成総額：5,687 万円（共同研究 2,888 万円、個人研究 2,799 万円）

助成先：別表 1 に記載

助成期間：平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

特記事項：平成 30 年度中に研究成果報告書の作成と公開（財団 Web への掲載、冊子作成、報告会の開催）を行う。

(3) 平成 30 年度公募型研究助成事業

平成 30 年度公募型研究助成事業を推進し、公募、審査、助成先の決定を行った。

ア 主要日程

- ・平成30年度研究助成募集要項の策定（平成29年6月）
研究助成審査委員会で提言のあった審査方法等に関する改善内容も考慮し策定した。
- ・公募（平成29年7月14日～9月30日）
- ・第1回研究助成審査委員会（平成29年10月13日）
- ・第2回研究助成審査委員会（平成29年12月15日）
- ・助成先の決定（理事会決議：平成30年2月1日）
- ・通知（平成30年2月）
- ・覚書締結（平成30年3月）

イ 助成先等

- ・応募総数：63件（共同研究24件、個人研究39件）
- ・助成件数：21件（共同研究6件、個人研究15件）
- ・助成総額：6,304万円（共同研究3,499万円、個人研究2,805万円）
- ・助成先：別表2に記載
- ・助成期間：平成30年4月1日～平成31年3月31日

(4) 学会等を通じた学術振興支援及び情報発信

以下の学会及び展示会等に参加し、財団の事業戦略策定に有益な研究や行政動向に関する情報収集を行うとともに、財団の広報の一環として、講演、展示または広告掲載を行った。

医学関係：日本小児難治・喘息アレルギー疾患学会、日本アレルギー学会※、日本小児アレルギー学会、食物アレルギー研究会

食品関係：日本栄養・食糧学会、ifiaJAPAN、日本食品化学会、フードフォーラムつくば、日本食品免疫学会※

栄養士関係：日本栄養改善学会、日本臨床栄養学会

※は参加のみ

また、日本栄養改善学会において、ランチョンセミナーの共催者に受諾され、演者に昭和大学医学部小児科学講座 講師の今井孝成先生を迎え、実施した。

実施日：平成29年9月14日

会場：アスティ徳島（第64回日本栄養改善学会学術総会 会場）

共催：第64回日本栄養改善学会学術総会

タイトル：「食物アレルギー診療ガイドライン2016を読み解く」

参加者：約200名

特記事項：聴講者は定員を上回り、栄養学や公衆衛生学をバックグラウンドとする教員・学生・関連職務従事者の食物アレルギーに対する関心の高さを実感するセミナーとなった。

2. 食物アレルギー領域の QOL 維持・向上を目指した啓発活動

(1) 「第3回食物アレルギー対応食 料理コンテスト」事業の実施

食物アレルギーに向き合う方の食生活の向上に寄与するために、食物アレルギーに対応する家庭での料理技術の伝承、教育機会の創出、コミュニケーションの場の提供を目的とする料理コンテストを継続実施した。食物アレルギー除去食、代替食料理を公募。食品及び医療領域等の専門家から成る審査委員会にて優良作品を選考した。また表彰式を実施した。

募集対象者の分類、対象料理の区分等については、昨年度と同様、二部門（一般の部、学生の部）を設け、食物アレルギーに対応した創作料理を主食・主菜・副菜等の料理のジャンルを問わず募集した。

ア 主要日程

- ・平成30年度募集要項の策定（平成29年6月）
- ・公募（平成29年7月1日～9月30日）
- ・第1回審査委員会（平成29年11月17日）
- ・第2回審査委員会（平成30年1月28日）
- ・受賞作品の決定（理事会決議：平成30年3月8日）

イ 受賞数等

- ・応募総数：790件
- ・事務局による一次審査通過数：99件（両部門合計）
- ・審査委員会（書類選考）による二次審査通過数：20件（両部門合計）
- ・審査委員会（試食審査）による最終審査結果：
 - 最優秀賞1件（各部門それぞれ）
 - 優秀賞1件（各部門それぞれ）
 - 審査委員特別賞3件（一般の部）
 - 審査委員特別賞5件（学生の部）
 - 入賞5件（一般の部）
 - 入賞3件（学生の部）

受賞作品名は別表3に記載

ウ 表彰式（平成30年3月18日）

審査委員特別賞以上の12組及び来賓、合わせて約90名規模で開催し受賞の栄誉を称えた。祝賀パーティーでは、受賞作品の料理に加えて食物アレルギー対応料理も提供し、参加者及び関係者の交流が図られるとともに本事業への注目度や事業の意義を確認した。受賞作品のレシピ、調理法（動画）をWebで公開する他、レシピ集（小冊子）を作成し、成果の普及に取り組む予定。

(2) 食物アレルギーセミナーの実施

全国5か所で、栄養士を中心に食に携わる方を対象としたセミナーを開催した。藤田保健

衛生大学医学部客員教授の宇理須厚雄先生に「食物アレルギー対応最近の考え方」に関する特別講演を、別府大学食物栄養科学部教授 高松 伸枝先生に「食物アレルギー栄養指導のポイント」についてご講演いただいた。講演後には現状抱えている問題を各先生と解決することを目的に座談会（質疑応答）も行なった。744名が聴講し、診断・治療・栄養指導・事故予防等の分野での最新情報を盛り込んだ講演と座談会は大変好評であった。

《開催地》

- 山形会場：平成 29 年 12 月 3 日、ヤマコーホール（山形県山形市）
- 静岡会場：平成 30 年 2 月 8 日、静岡県産業経済会館（静岡県静岡市）
- 高松会場：平成 30 年 2 月 25 日、オークラホテル高松（徳島県高松市）
- 東京会場：平成 30 年 3 月 18 日、女子栄養大学駒込キャンパス（東京都豊島区）
- 京都会場：平成 30 年 3 月 29 日、京都テルサ（京都府京都市）

その他、啓発活動の一環として、栄養士会や大学等からの依頼により、栄養士や学生を対象として、食物アレルギーに関する栄養指導を含む基礎知識について講演を実施した。

(3) 団体活動支援助成の実施

全国の市民、民間団体の行う食物アレルギーの問題解決を目指す諸活動を支援するために助成事業を行った。支援先の決定を公正・公平に行うために公募制とした。助成先の不定期的な計画化に極力対応するため、今年度より 2 期に分けて実施した。助成の可否判定は、理事会にて審査基準に基づいて行った。

ア 主要日程

- ・ 公募 第一期：平成 29 年 4 月 3 日～4 月 28 日
 第二期：平成 29 年 8 月 1 日～9 月 4 日
- ・ 助成先の決定 第一期：平成 29 年 5 月 25 日、第二期：平成 29 年 10 月 12 日
- ・ 助成期間 第一期：平成 29 年 7 月 1 日～10 月 31 日
 第二期：平成 29 年 11 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

イ 助成先

- ・ 助成件数：6 件（第一期・4 件、第二期・2 件）
- ・ 助成総額：309 万円（第一期・253 万円、第二期 56 万円）
- ・ 助 成 先：別表 3 に記載

3. 地域社会、産業と連携した食物アレルギー対応力向上に向けた取り組み

(1) 事業成果物の普及活動の強化

ア 啓発物の普及

平成 27 年度に制作し全国の小学校、公立図書館に寄贈した「食物アレルギー」を主題にした書籍（まんが）について、Web 上でのプレゼントキャンペーン（年 4 回）等により献本した。小冊子に関しては、学会展示や各種講演向けに配布した。

イ 料理コンテスト事業における入賞作品レシピの普及

当コンテスト受賞作品の普及を目的とした活動を推進した。第 1 回コンテストに続いて、受賞作品の料理動画を作成し、Web 上での公開を行った。また、第 1 回及び第 2 回コンテスト受賞作品のレシピ集（小冊子）を夫々、個別に作成し展示会やセミナー等で配布した。

ウ 料理コンテスト事業における入賞作品の市場への普及

2. の (1) および 3. の (1) イの内容に注力した。食品メーカー等とタイアップした製品化やマーケティングについては大きな進捗に至らなかった。

(2) 行政との連携

アレルギー疾患対策基本法の施行における行政の所轄省庁である厚生労働省に対して、財団事業の概要について報告した。来年度以降、当財団の事業成果物の情報提供等で連携を図る。

4. 財団の認知度向上のための取り組み

(1) Web サイトによる情報発信

コンテンツの追加を進め、情報発信力の強化を行った。財団活動の認知を高め、アクセス数の向上を図るため、SNS 発信を継続的に行った。

(2) その他の認知度向上のための活動

8 回のニュースリリースや学会等での展示、各種講演を実施し、多数の記事掲載実績を獲得した。

5. 財団運営

(1) 堅実な法人運営

公益法人の運営 3 原則（ガバナンス、コンプライアンス、ディスクロージャー）の遵守を基礎とし、健全な運営を図った。理事会、評議員会の機関運営、各種委員会の運営においては関係法や規定遵守を基本に遂行するとともに、運営に万全を期すために外部ブレイン（監査法人、公益法人協会、助成財団センター等）も活用した。

機関運営を別表 4 に記載

(2) 公益財団法人認定後の業務の変更

平成 29 年 4 月 1 日より公益財団法人としての活動を開始した。公益法人化に伴い、自立し

た存在としてガバナンスを図るべく、職務執行体制の一部見直しを行った（特に経理処理方法及び外部への業務委託方法）。

以上

別表1 平成29年度 公募型研究助成課題一覧

【共同研究助成（5件）】

	氏名	所属機関・役職	課題名
1	伊藤 浩明	あいち小児保健医療総合センター 副センター長・総合診療科部長	α s1 カゼインのアレルゲン活性に対する免疫学的機序による制御に関する研究
2	海老澤元宏	国立病院機構相模原病院 部長	新生児早期の食事介入による即時型食物アレルギー発症予防効果の検証
3	香月 康宏	鳥取大学 染色体工学研究センター 准教授	食物由来制御性ペプチドの探索に基づく食物アレルギー予防食品の開発
4	藤澤 隆夫	国立病院機構三重病院 院長	重症鶏卵アレルギーに対する経皮免疫療法の有効性と安全性に関する研究
5	松本 健治	国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部 部長	ヒスタミン遊離因子の阻害による食物アレルギー治療薬の開発

【個人研究助成（14件）】

	氏名	所属機関・役職	課題名
1	伊藤 亮治	公益財団法人実験動物中央研究所 博士研究員	ヒト化マウスを用いた食物アレルギーモデルマウスの開発とアナフィラキシー制御の研究
2	五十嵐 ありさ	国立成育医療研究センター研究所 研究員	食物アレルギー罹患児の血漿中におけるアレルギー関連 miRNA の発現プロファイル解析
3	上番増 喬	徳島大学大学院医歯薬学研究部 助教	母親の腸内環境が胎児の出生後の食物アレルギー発症に及ぼす影響の解析
4	大嶋 直樹	島根大学 医学部 助教	microRNA の網羅的解析を用いた好酸球性消化管疾患のバイオマーカーの探索
5	岡田 貴裕	佐賀大学 医学部 助教	糖鎖生物学的アプローチによる果実のアレルゲン性発現メカニズムの解明
6	片山 茂	信州大学 農学部 准教授	免疫寛容誘導作用を有する低アレルゲン性蕎麦抗原ペプチドの創製と予防治療への応用
7	川本 典生	岐阜大学医学部附属病院 小児科 併任講師	抗原改変カゼインを用いた乳幼児ミルクアレルギー患者への早期介入による、ミルクアレルギーへの治療効果に関する研究

8	國澤 純	(国研)医薬基盤・健康・栄養研究所プロジェクトリーダー	食物アレルギーの新規予防法の開発に向けた母子栄養・腸内因子とアレルギー疾患との相関解析
9	田中 景子	愛媛大学大学院医学系研究科疫学 助教	妊婦の栄養摂取状況と子の食物アレルギー発症との関連：出生前コホート研究データを活用した解析
10	長尾みづほ	国立病院機構三重病院臨床研究部 室長	食物アレルギー児のQOLに着目した予後に関する研究
11	平川城太朗	千葉大学大学院薬学研究院 助教	革新的抗体作製技術を用いた食物アレルギー抗原同定法の開発
12	藤村 孝志	広島大学大学院先端物質科学研究科 特任助教	うるち米デンプンとアレルゲンの共摂取による経口免疫寛容誘導の検討
13	山本 武	富山大学和漢医薬学総合研究所 助教	葛根湯の併用による経口免疫寛容の治療効率の向上及びその機序の解明
14	吉田 幸一	東京都立小児総合医療センター アレルギー科 医員	マカダミアナッツアレルゲンの交差反応についての解析

※50 音順、敬称略

別表2 平成30年度 公募型研究助成課題一覧

【共同研究助成 (6件)】

	氏名	所属機関・役職	課題名
1	北浦 次郎	順天堂大学大学院医学研究科 アトピー疾患研究センター 前任准教授	抑制型受容体に着目した食物アレルギーの予防・治療法開発
2	常山 幸一	徳島大学大学院 医歯薬学研究部 患病理学分野 教授	経皮感作による甲殻類アレルギーモデル動物の作成とプレバイオティクス投与による予防効果の解析
3	松永 佳世子	藤田保健衛生大学 教授	魚アレルギー免疫療法を見据えた複合的低アレルゲン化コンポーネントの開発
4	松本 健治	国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部 部長	ヒスタミン遊離因子の阻害による食物アレルギー治療薬の開発
5	村田 幸久	東京大学大学院農学生命科学研究科 准教授	食物アレルギー診断マーカーの応用と診断キットの開発

6	森田 栄伸	島根大学医学部皮膚科学講座 教授	ω-5 グリアジン欠損食用小麦の開発：ω-5 グリアジン感作型小麦アレルギーの根絶に向けて
---	-------	------------------	---

【個人研究助成(15件)】

	氏名	所属機関	課題名
1	伊藤 靖典	富山大学医学部小児科 助教	食物アレルギー児の食事指導における葛根湯併用の耐性誘導獲得効果の検討
2	上番増 喬	徳島大学大学院医歯薬学研究部 予防環境栄養学分野 特任助教	母親の腸内環境が胎児の出生後の食物アレルギー発症に及ぼす影響の解析
3	岡田 祐樹	昭和大学医学部小児科学講座 助教	新入大学生を対象とした成人食物アレルギー調査研究
4	倉島 洋介	東京大学医科学研究所 国際粘膜ワクチン開発研究センター 特任准教授	経口免疫療法によるエフェクター細胞の形質変化の誘導機序の解析
5	黒谷 玲子	山形大学大学院理工学研究科 バイオ化学工学部 准教授	新規生理活性物質 SCGB3A2 の食物アレルギー改善薬としての検証
6	小西 瑞穂	国立成育医療研究センター 研究所 研究員	心因性食物アレルギー形成の解明と寛解プログラムの作成 ー食物アレルギーの真の寛解へー
7	小林 征洋	国立大学法人東京海洋大学 助教	魚類アレルゲン（パルブアルブミン）のデータベース構築に向けた基礎的研究：多魚種にわたる魚類アレルゲン含有量および免疫化学的性状の解明
8	佐藤 陽	いわき明星大学 薬学部 助教	新規アナフィラキシー治療薬の開発ーバイオニル化ペプチドの有効性評価ー
9	杉浦 至郎	あいち小児保健医療総合センター アレルギー科 医長	急速経口免疫療法後に残存する運動誘発症状の機序に関する検討 ー生体内における好塩基球活性化の可能性ー
10	高木 秀明	宮崎大学医学部医学科感染症学講座 免疫学分野 助教	食物アレルギーに対する舌下免疫療法の有効性の検証と作用機序の解明
11	谷田 守	金沢医科大学 医学部 生理学Ⅱ講座 准教授	アナフィラキシー低血圧時の交感神経興奮を惹起する脳内機構の全容解明
12	中島 陽一	藤田保健衛生大学医学部 小児科 講師	低アレルゲン化食品を用いた魚アレルギーに対する新規治療法の開発

13	八木 久子	群馬大学大学院医学系研究科医科学専攻 小児科学分野 医員大学院生	新生児・乳児消化管アレルギーの診断にむけた革新的検査法の開発
14	吉岡 靖雄	大阪大学 微生物病研究所 ワクチン創成プロジェクト 特任准教授	独自の機能性ペプチドを用いた食物アレルギーに対する根治療法の開発
15	吉川宗一郎	東京医科歯科大学 医歯学総合研究科 免疫アレルギー学分野 助教	新規脱顆粒インディケーターを用いたアレルギー検出システムの構築とその応用

※50 音順、敬称略

別表3 第3回食物アレルギー対応食 料理コンテスト 受賞作品一覧

【一般の部(10件)】

受賞名	料理名	氏名/ニックネーム/ グループ名	都道府県
最優秀賞	とろ〜りチーズ&さくさくフレークのライスコロッケ	ウオクニ株式会社	兵庫県
優秀賞	残りご飯で甘酒ココアムース	小川 真里	千葉県
審査委員特別賞	おいしいサモサ	原田 員孝	千葉県
審査委員特別賞	くまちゃんプリンタルト	おさんぽ日和 Seiko	大阪府
審査委員特別賞	タルト・オン・ソイチーズ	株式会社テストイパ ル Kids サポートチ ーム	大阪府
入賞	ポテッとポンデケージョ	四位 さち	宮崎県
入賞	さあアルザスへ!チーズの味わいタルトフランベ	米永 基子	福岡県
入賞	ポマト de グラタン	くう*	和歌山県
入賞	みんな大好き♡ウィンナーロール	ひまわり	茨城県
入賞	サクほろ♡potaTofu クリームのキッシュ	立和名 亜希子	福岡県

【学生の部(10件)】

受賞名	料理名	氏名/ニックネーム/グループ名	学校名	都道府県
最優秀賞	米粉とほうれん草のタリアテッレ ～濃厚パスタ風～	沖中 凜香	広島酔心調理 製菓専門学校	広島県
優秀賞	虹色ガトー・インビジブル	浦野 有美	常葉大学	静岡県
審査委員 特別賞	Sweet Potato アボカドプリン	山下 裕子	東海大学短期 大学部	静岡県
審査委員 特別賞	小麦・乳・卵不使用!!もちっとカ リーパイ	多賀 暁	広島酔心調理 製菓専門学校	広島県
審査委員 特別賞	もっちもち!?米粉らあめん	Ralphs	—	新潟県
審査委員 特別賞	さつまいもあんの静岡茶大福	中山 実月	静岡県立藤枝 北高等学校	静岡県
審査委員 特別賞	肉みそたっぷり旨あじピロシキ	緒方 優里子	西南女学院大 学	福岡県
入賞	サクッ!もちっ!アレルギー対応ベ ーグル～Soy!Soy!Sooy っと3変幻 ～	ザ・ベーグルズ	鎌倉女子大学	神奈川県
入賞	白いモンブラン	柴田 葵	大阪成蹊大学 (食ビジネス コース)	大阪府
入賞	和洋ぐるぐるケーキ	KKP-UI 梅田 芽生 / 板谷 綾音	長崎県立島原 農業高等学校	長崎県

※50音順、敬称略

別表4 平成29年度 団体活動支援助成課題一覧

【第一期(4件)】

	氏名	団体名	活動課題名
1	加藤 美奈子	ウサギクラブ子育て支 援サークル	子供たちとその保護者に対する食物アレルギー絵 本・紙芝居・セミナー等を通じたアレルギー教育 と啓発活動
2	岡 真美	食物アレルギー体験レ ポーター岡夫婦	食物アレルギーで家族をつなげるプロジェクト

3	田野 成美	大阪狭山食物アレルギー・アトピーサークル「Smile・Smile」	食物アレルギー情報共有企画
4	安部 泰祐	ふくおか食物アレルギー研究会	第2回 ふくおか食物アレルギー攻略法講座（講演会）

【第二期（2件）】

	代表者名	団体名	活動課題名
1	安部 泰祐	ふくおか・食物アレルギー研究会	ふくおか・食物アレルギー研究会のホームページ開設による情報提供
2	緑川 琴絵	いわき市アレルギーっ子交流会『もぐのび』	食物アレルギーハンドブック（入園学マニュアル及び給食代替えレシピ付き）

※50 音順、敬称略

別表5 平成29年度 機関運営

	日付	会議名	主な議題
1	5月25日	第1回理事会	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度決算書類、事業報告の承認 評議員会招集の決定 代表理事、業務執行理事の職務遂行状況報告 審査委員会委員の選任 平成29年度第一期団体活動支援助成 助成先の決定
2	6月15日	第1回評議員会	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度事業報告、決算書類の承認 平成28年度事業計画及び予算書についての報告
3	10月12日	第2回理事会	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度第二期団体活動支援助成 助成先の決定 代表理事、業務執行理事の職務執行状況の報告 平成28年度事業進捗状況の報告
4	2月1日	第3回理事会 (決議の省略による)	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度公募型研究助成における採択候補課題の決定
5	3月8日	第4回理事会	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度事業計画、収支予算についての承認 第3回食物アレルギー対応食 料理コンテスト 受賞作品の決定 代表理事、業務執行理事の職務遂行状況の報告 研究助成審査委員会からの上申内容についての報告

付属明細書に記載する事項無し

以上